



これからの摂食嚥下リハビリテーション ～診療所勤務の歯科衛生士に期待すること～

東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科老化制御学系
口腔老化制御学講座摂食嚥下リハビリテーション学分野 教授
戸原 玄

“老人の友”と呼ばれる肺炎を直接引き起こす摂食嚥下障害は外部からの観察が難しい。超高齢社会である日本では、肺炎による死亡数は多い。その原因は人口の高齢化により誤嚥性肺炎が増加したためではないかと考えられている。誤嚥は摂食嚥下障害により起こるが、その状態を正確に把握するためには精査が必要になる。しかし、全ての患者に対して検査環境が整っているとは言いがたいのが現状であり、特に通院できない患者への対応を困難としている。

摂食嚥下障害への対応の第1歩は職種間で共有すべき知識をもつことにある。そのような知識を一通り得た上で医療連携チームの編成を考えてゆくことが大切であるが、何をおいても患者の発掘が重要な視点となる。現在の日本では摂食・嚥下の評価に長けた人材が不足していることに加えて、DPCおよび療養病床の削減などの影響により、何らかの原因により摂食嚥下機能が低下した患者に対して、入院中にリハビリテーションを十分に行うことができないまま退院もしくは転院するケースが多い。嚥下障害が残存している状態で在宅へ移行する患者が多いが、その先で何も行われなくなる、もしくは退院時の状態が永続的なものとされて対応が続けられるのが問題なのである。極端な表現をすると、食べる機能についてのリハビリテーションが中途なまま退院を余儀なくされているのに対し、退院後、“ただそのまま”になっている患者が多いのである。特に今後の日本においては訪問診療が必要とされる場面、地域が増加することは想像にたやすいが、そういった場面で食べることを真剣に評価してリハビリの場面に乗せることが重要である。また摂食嚥下というと内視鏡検査を行って訓練をするんだらうというイメージを持つ方がおそらく大半だと思う。研究内容もオーラルフレイルとかそういう評価をするんじゃないかという印象があると思われる。しかし、近年摂食嚥下関連の研究は発展している。介入の必要性や臨床の基本的な部分も紹介するが、QOLを向上するために必要な行動、声が出せない人向けの口腔内装置、嚥下の介入が腸内細菌に及ぼす影響などなるべく新しいものもできるだけ紹介する。そして、そのような視点を持つために意識すべきことなどについても考えられればと思う。

【略 歴】

戸 原 玄 1972年1月19日生 男 歯科医師

1997年 : 東京医科歯科大学歯学部歯学科卒業

1998-2002年 : 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科老化制御学系専攻高齢者歯科学分野大学院

1999-2000年 : 藤田保健衛生大学医学部リハビリテーション医学講座研究生

2001-2002年 : ジョンズホプキンス大学医学部リハビリテーション科研究生

2003-2004年 : 東京医科歯科大学歯学部附属病院高齢者歯科 医員

2005-2007年 : 東京医科歯科大学歯学部附属病院高齢者歯科 助手
東京医科歯科大学歯学部附属病院摂食リハビリテーション外来 外来医長

2008-2013年 : 日本大学歯学部摂食機能療法学講座 准教授

2013-2019年 : 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科老化制御学系口腔老化制御学講座高齢者歯科学分野 准教授

2020年— : 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科医歯学系専攻老化制御学講座摂食嚥下リハビリテーション学分野 教授

業 績

【原 著】

1. Yamaguchi K, , Tohara H, et al: Effect of oral intake initiation-establishment interval on hospital stay after oral cancer surgery., Oral Dis. 2024
2. Yamada T, Tohara H, et al: Development and evaluation of a new intraoral voice assist device called the voice retriever. Laryngoscope Investig Otolaryngol. 2024
3. Tamura A, Tohara H, et al: Physical, oral, and swallowing functions of three patients with type a xeroderma pigmentosum: a report of three cases. BMC Oral Health. 2024
4. Yamaguchi K, Tohara H, et al.: Effect of poor oral health status at hospital admission on in-hospital outcomes of older patients with aspiration pneumonia. Eur Geriatr Med. 2024
5. Moritoyo R, Tohara H, et al.: Relationship between the jaw-closing force and dietary form in older adults without occlusal support requiring nursing care. Sci Rep. 2023

【受 賞】

1. 日本顎口腔機能学会学術大会優秀賞, 2023年
2. 訪問診療での歯科臨床 在宅歯科医療をさらに高めるClinical Questions, 戸原玄, 中川量晴編集 2021年老年歯科医学会賞
3. 歯学研究奨励賞, 東京医科歯科大学, 2018年度
4. 東京医科歯科大学医療チーム功労賞, 東京医科歯科大学, 2015, 2017年
5. 日本摂食嚥下リハビリテーション学会論文賞2009年度, 2023年度
6. 老年歯科医学会雑誌2008,2009,2014年度優秀論文賞

【理 事】

日本老年歯科医学会 (常任理事・高齢者歯科医療委員会委員長・摂食嚥下リハビリテーション委員会委員長)

日本摂食嚥下リハビリテーション学会 (表彰委員会委員長・教育委員・ホームページ担当委員会委員長)

Patient Doctor Network

在宅支援歯科診療連絡会

日本補綴学会東京支部

日本神経摂食嚥下・栄養学会 (編集委員・2025年学術大会大会長)

日本口腔リハビリテーション学会

口腔病学会

日本咀嚼学会

日本顎口腔機能学会 (2024年学術大会大会長)

日本咀嚼学会 (利益相反委員会副委員長)

【認定医・専門医】

日本摂食嚥下リハ学会認定士

日本老年歯科医学会認定医および認定医指導医

日本老年歯科医学会専門医および専門医指導医